

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12503

研究課題名（和文）訪問看護における移動中の交通事故の現状と課題に関する研究

研究課題名（英文）A Study of the Present Situation and Issues of Traffic Accidents During Transportation in Home-visit Nursing Care

研究代表者

早川 りか（HAYAKAWA, Rika）

武庫川女子大学・看護学部・教授

研究者番号：50737575

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、訪問看護の移動中の交通事故の実態を明らかにすることを目的として、全国の訪問看護事業所へのアンケート調査および訪問看護師への聞き取り調査を行った。

アンケートに回答のあった事業所944件の1年間の事故発生件数897件であり、1施設あたりの1年間の事故発生数は0.95件であった。事故の発生件数と訪問件数および移動時間との相関はみられなかった。第2段階の調査である訪問看護師へのインタビュー調査では、事故の原因として、雪や雨などの悪天候に関するもの、時間の逼迫による焦りがあることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、訪問看護の移動中の交通事故の実態を明らかにすることができた。また、移動中の事故により、看護師が入院、休職するという深刻な事態を引き起こしているケースもみられ、訪問看護師の多くが移動時の不安を抱えていることや交通事故には至らなくてもヒヤッとする体験を持っていることも明らかになった。

これらの事故を防止するために、訪問看護事業所の管理運営においては、看護師の安全面に配慮した訪問調整や時間の確保、悪天候時等での注意喚起、マニュアル作成など、事故を引き起こす要因に対する具体的な取り組みが重要であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：A nationwide questionnaire survey of home healthcare nursing establishments and interviews with home healthcare nurses were conducted to clarify the actual situation of traffic accidents during home healthcare nursing transportation.

The 944 establishments that responded to the questionnaire had 897 accidents annually, or 0.95 accidents annually per establishment. There was no correlation between the number of accidents and number of visits or travel times. In the second phase of the survey, interviews with home healthcare nurses revealed that the causes of accidents were related to bad weather conditions, such as snow and rain, and impatience because of time pressure.

研究分野：在宅看護学

キーワード：訪問看護 訪問看護事業所の管理・運営 移動中の交通事故 訪問時のインシデント

1. 研究開始当初の背景

訪問看護で起こりうる事故は、「医療事故」、「ケア事故」、「交通事故」、「盗難・紛失・破損」、「その他」の5つのカテゴリーに分類することができ、事故の対象として「利用者」、「家族、他」、「職員(看護師) 事業所」がある(宮崎和加子 2003)。訪問看護の事故に関する研究について「インシデント」をキーワードとして検索したところ、該当したのは27件であったが、その多くが利用者に対する医療事故またはケア事故に関するものであり、訪問看護師の移動中の交通事故を詳細に取り上げた研究は、二階堂らの「訪問看護におけるインシデント・アクシデントおよび予防・対応策の実態」(二階堂一枝ら 2004)のみであった。(医学中央雑誌での検索:2016年10月時点)

訪問看護師の移動中の事故防止策については、各地の看護協会や訪問看護に関連する団体などが中心となって事故防止マニュアルの作成などが積極的に行われ、訪問看護事業所および訪問看護師の賠償保険や傷害保険への加入が進められるなどの取り組みがなされている。しかし、交通事故による負傷のため、看護師が長期にわたる休職や離職を余儀なくされるなどの出来事が発生しており、このような場合、当事者である看護師だけでなく、周囲の看護師らもまた、不安の気持ちを抱きながら日々の業務にあたっているという現状がある。このようなことから、訪問看護師の交通事故についての現状の把握と具体的対策は急務であり、事故防止策を検討するにあたっては、訪問方法や移動の手段、そして、これまでの事故についての詳細な分析が重要であると考えられた。

2. 研究の目的

超高齢化時代における国の施策として在宅療養が推進される中、訪問看護の現場では、看護師が一人で療養者宅に訪問するという特性より、患者からの暴力や交通事故など、訪問看護ならではのトラブルが問題となっている。特に交通事故については、訪問看護におけるインシデント・アクシデント全体の20%程度を占めており、看護師が不安の気持ちを抱えながら日々の業務にあたっているという現状がみられる。

交通事故の問題は、看護師の安全確保および訪問看護事業所を運営する上で重要な課題であると考えられる。本研究では、訪問看護特有の交通事故の現状を明らかにし、事故の要因および事故防止策について考察する。

3. 研究の方法

本研究は、全国の訪問看護事業所へのアンケート調査および訪問看護師へのインタビュー調査の2段階の調査を行う。

(1) 全国の訪問看護事業所への郵送によるアンケート調査

・全国訪問看護事業協会ホームページで公表されている日本全国の訪問看護事業所、約9000施設のうち、地域ごとに無作為に抽出した2000施設に郵送にて調査を行う。

・調査項目は、主なものとしては次のとおりである。

施設の属性に関わる項目(地域、施設規模、スタッフ数、療養者数等) 療養者宅への移動にかかわる項目(交通手段、移動時間、訪問範囲等) 移動中の事故に関する項目(事故の発生件数、事故の種類、負傷時の治療、事後の対応等) 事業所の管理に関する項目(自転車等の管理方法、保険加入等)

・収集したデータは、統計ソフトを用いて統計学的に分析を行う。

(2) 訪問看護師へのインタビュー調査

・対象属性に関する事項、勤務状況に関する事項(訪問件数、療養者宅への移動の方法など) 事故に関する事項(事故の経験の有無、ヒヤットした出来事等)を聴き取る。

・許可を得てICレコーダーに録音し、逐語録を作成した後に質的分析を行う。

4. 研究成果

第1段階の調査では、アンケートに回答のあった事業所944件の1年間の事故発生件数897件であり、1施設あたりの1年間の事故発生数は0.95件であった。事故の発生件数と訪問件数および移動時間との相関はみられなかった。負傷で最も多いのは頸椎捻挫で、以下、骨折、擦過傷、打撲などがみられた。負傷後の経過としては、通院による治療がもっとも多かったが、事故の種類と移動方法の関連では、ミニバイク、電動自転車、自転車の場合、事故時の負傷率が有意に高かった。また、自由記述欄を分析した結果、事故の原因に関するもの、交通違反に関するもの、事故対策に関するものに分類された。

これらへの対策として、時間のゆとりの確保が最も多く挙げられた。また、事故以外にも駐車場の問題や交通違反に関する悩みや困難感についての記載がみられた。

第2段階の調査である訪問看護師へのインタビュー調査では、事故の原因として、雪や雨などの悪天候に関するもの、時間の逼迫による焦りがあることが明らかになった。また、訪問看護師の多くが移動時の不安を抱えていることや交通事故には至らなくてもヒヤットとする体験を持つ

ていることが明らかになっており、看護師の心理面や行動特性と事故の関連を示唆する内容もみられた。

これらの事故を防止するために、訪問看護事業所の管理運営においては、看護師の安全面に配慮した訪問調整や時間の確保、悪天候時等での注意喚起、マニュアル作成など、事故を引き起こす要因に対する具体的な取り組みが重要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 早川りか、堀智子、森谷和代	4. 巻 25-2
2. 論文標題 大学生への看護基礎教育における在宅緩和ケア授業の学習効果に関する研究 訪問看護師による特別講義後の学生へのアンケート調査の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ホスピスケアと在宅ケア	6. 最初と最後の頁 116-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 早川りか、寺田准子、人見裕江、佐々木純子
2. 発表標題 訪問看護における移動中の交通事故の現状と課題(第1報) 訪問看護事業所への調査から
3. 学会等名 日本在宅看護学会第8回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川由香、井上寛子、早川りか、高間さとみ
2. 発表標題 A特別支援学校の看護師の定着と教員との協働の関係 看護師離職が少ない特別支援学校の事例
3. 学会等名 日本看護科学学会第38回学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	人見 裕江 (HITOMI Hiroe) (30259593)	山陽学園大学・看護学部・教授 (35310)	2020年度辞退

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀 智子 (HORI Tomoko) (30772800)	藍野大学・公私立大学の部局等・助教 (34441)	2018年度辞退

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関